

2018年(平成30年)5月9日(水) 第36回 例会 (通算2787回)

国際ロータリー 第2580地区

(今月のロータリーレート:1ドル108円)

# 石垣ロータリークラブ週報

No. 2652

会長: 大浜 一郎 副会長: 遠藤 正夫 幹事: 宮城 早人 副幹事: 池城 貞光



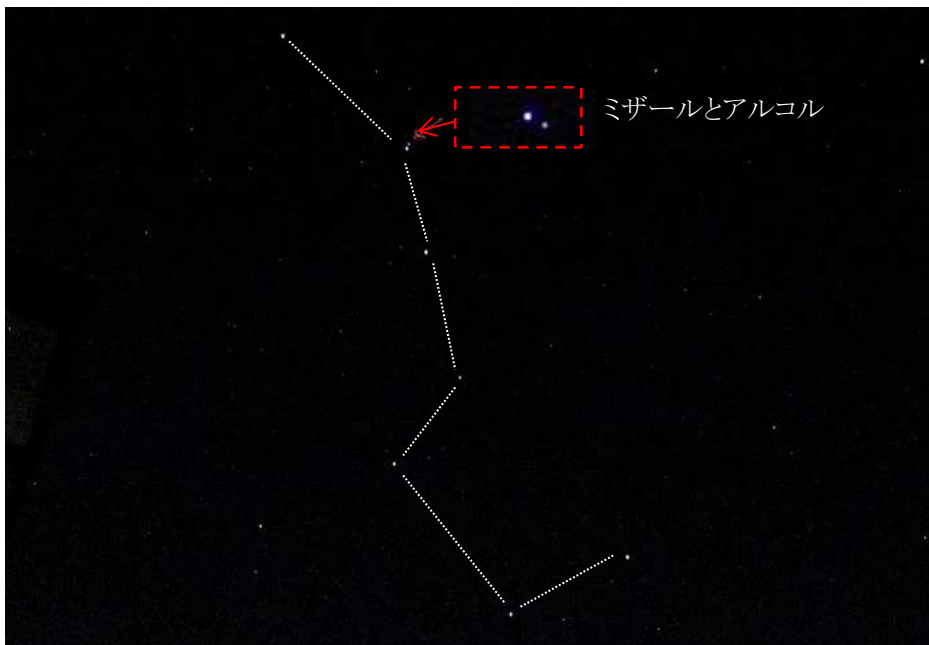
RI 会長:  
イアン H. S. ライズリー

ロータリー:  
変化をもたらす

## ●クラブテーマ「絆とおもいやり」

例会日 水曜日 12:30~13:30  
例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4  
TEL/FAX(0980)83-2917  
http://ishigaki-rotary.jimdo.com  
E-mail ishirotary@ninus.ocn.ne.jp

地区ガバナー: 吉田 雅俊氏「感動と調和」



◎**シタセツ星(北斗七星)**  
地上に舞い降りた天女が、貧乏でもまじめに働く青年と結婚し、かわいい男の子が生まれました。ある日、北斗七星の星が六つしかない事が村中に気付かれ、天女は天に戻らなくてはなりません。天に昇る時、我が子だけは連れて行きたいと、赤ちゃんを抱きかかえて天に帰ったのです。「ミザール」と「アルコル」がその母子星と言われています。(八重山の民話)

## 4月25日(水)第35回(通算2787回)例会報告

<司会進行> 東上里 和広

ロータリーソング:「奉仕の理想」「四つのテスト」

ソングリーダー: 上勢頭 保

ゲスト: 糸洌 長章氏(糸洌三味線屋 代表)

メイクアップ: 小林 正道・新城永一郎・宮良 榮子  
大浜 勇人・前原 博一・橋本 孝来・我那覇宗善

### 出席報告

会 員 総 数	44名
出 席 義 務 会 員	43名
出 席 数	27名
欠 席 数	16名
出 席 率	62.79%
通算出席率(4月)	70.54%



## 本日のこころ

- ・糸洌先生、今日は本当にありがとうございました。  
(大浜 一郎)
- ・4/14(日)伊江島ハーフマラソンゴールしたさあ~  
(米盛 博和)
- ・三次会(4/18)の残金です。(プログラム・親睦員会)

BOX	¥ 5,000	(累計¥174,000)
コイン	¥ 2,109	(累計¥ 80,419)
合 計	¥ 254,419	

**HAPPY BIRTHDAY**

仁開 一夫氏(1954年5月3日)

宮城 隆氏(1952年5月6日)

## 会長挨拶：大浜 一郎



去った4/18日の台北大同RCとの姉妹締結式には、大勢の皆様にご参加いただきありがとうございました。小底さんを中心に奥様方にご協力頂いた、したウェルカムお茶も大変好評で、皆さんに喜んで頂きました。台北の皆さん3泊4日の滞在でしたが、天気も良く石垣島の雰囲気をも十分に味わって頂けたかと思えます。会員の中には社員旅行で石垣島に来たいという方もいて、台北一石垣の直行便も出ていますので、クラブ同士の交流に止まらず、経済面でも石垣島に貢献できるのではないかと思います。台北大同RCと姉妹クラブになりましたので、これから増々いい関係を築いて行ければと思います。島内観光や竹富島観光、小浜島でのゴルフ、最終日には美崎牛も堪能して、大満足で皆さん帰られました。

## ゲスト卓話：糸洌 長章氏

糸洌三味線店 代表



沖縄には古くから、数多くの宮廷音楽や民謡が歌い継がれています。琉球王国時代から歌われてきた宮廷音楽は、今日では琉球古典音楽といわれ、三線、笛、太鼓、琴、胡弓などの楽器を演奏して歌われます。宮廷音楽は士族階級の間で三線音楽

として普及、伝承されてきた。民謡は村々や離島などの農民階級の間で、三線などの楽器を使わずに歌い継がれてきた。

三線は、今から600年ほど前の14世紀末に中国から伝わり、三弦（サンシェーン）と言われ、長さが約110cmあり、中国の福州から渡来した閩（ビン）人が持ってきたと言われていています。琉球人はこれを改良し、現在の長さ80cmの楽器にした。改良された楽器は「三線（サンシン）」と呼ばれます。今から450年前の室町時代には、堺の商人によって大阪に伝えられて改良され、棹が太く長くなります。長さは約98cmとなり、琉球の三線に味をつける（改良する）という意味で「三味線」と呼ばれます。江戸時代になると、琉球王国は薩摩藩の支配下になり、間接的に徳川幕府の支配を受けることになり、江戸時代以降は琉球でも「三味線」という呼称が使われます。

八重山に三線がいつ頃伝わったかは定かではないが、17世紀頃だろうと考えられます。八重山での三線歌（節歌という）の古いものが1600年代に作られているからです。明治政府が1872（明治5）年に琉球王国を廃し琉球藩とし、さらに1879年の廃藩置県により、琉球藩を廃し沖縄県とします。琉球王国が解体され封建制が廃止されると、士族は首里では暮らせなくなり、田舎下りすることになります。それに伴い宮廷音楽としての三線文化が普及していく事になります。

### 八重山民謡の分類

**アヨー** ユンタ・ジラバより古い形式の歌で、神への祈りの時に歌う神歌である。宮古と同じくアヤグという言葉もあったが、音便変化して「アヨー」となったという。

**ユングトゥ** 幸せへの願い事などを旋律を伴わないで唱えるのと、旋律的な高低をつけて歌うものがあります。リズムは5拍が多いが、8拍という変形したリズムもあります。

**ユンタ・ジラバ** ユンタ・ジラバは八重山民謡の骨格をなし、三線の伴奏なしで大勢で作業をしながら歌うものが作業（労働）歌です。ユンタの語源は「詠み歌」あるいは「結い歌」という説があります。「詠み歌」とは叙事詩のことで、いわゆる物語的で、歌詞も10～30番という長い歌で、この「よみうた」が変化して「ユンタ」になったという。一方「結い歌」はユイマール（結い）の共同作業を歌う歌ということで、「ゆいうた」が変化

して「ユンタ」になったという説がある。また、「ユンタ」と「ジラバ」は明確な区別はない。ユンタには対称性があり、交互唱、対句法、そして「ウティナン・スサナン」というものです。

**節歌** 三線の伴奏により歌われる歌を「節歌」といい、沖縄では首里・那覇を中心とする宮廷音楽と地方音楽とに分けられます。八重山では三線の伝来により、歌の伴奏楽器として三線が使われてくる。八重山の「節歌」は士族によって作られているが、宮廷音楽には分類されていない。琉球王国解体後の明治以降は、歌は庶民の間に広まり普及、継承されてきました。民謡の定義からすると、八重山民謡とはアヨー、ユンタ、ジラバなどをさす。節歌などは「八重山古典民謡」と定義づけています。

#### 八重山民謡（節歌）の音階

八重山民謡では洋楽の階名でいうと、ドレファソラの律音階（八重山音階ともいう）、ドレミソラの陽音階（47（ヨナ）抜き音階ともいう）、ドレミファソシの琉球音階に分類できる。

多いのが律音階で、これは沖縄全域に広く分布する音階です。八重山民謡では赤馬節、月夜浜節、大浦越路節、目出度節、鶴亀節など。

沖縄本島には少ないが宮古・八重山で特徴的なものが陽音階です。八重山では鷲ぬ鳥など約 20 曲である。宮古民謡で約 50%がこの陽音階で、宮古・八重山の代表的な音階といってもいいです。

沖縄のほぼ全域に分布しているのが「琉球音階」です。八重山の節歌では、缸ゆば節、蔵ぬゆば節、たらくじ節など 20 曲余りである。琉球音階は、日本では沖縄の特徴的なものですが、世界的にみるとインドネシアやバリ島で、沖縄の琉球音階に似たものがあります。

結びに、三線は中国から伝わった「三弦」が改良され琉球独特の楽器として、今日に伝わっています。笛は中国の明笛を琉球音楽の楽器として使っています。また、工工四は中国の「工尺譜」を参考にして作られています。しかし旋律的には中国の影響はほとんど見られない。むしろ旋律的にはモンゴルやチベット、インドネシアなどによく似たメロディーがあります。私はその民族が遺伝的にもっている遺伝子だと思うんです。その地域の人々が共通に持っている音楽なのです。ふおれが民俗音楽の音になっています。

## 例会風景



八重山民謡や三線の歴史について、とても勉強になりました。

2018-2019 年度 RI 会長 バリー・ラシン  
(バハマ・イーストナッソーRC)



インスピレーションになるう

## 2018～2019年度組織図(案)

理 事 会		
会 長 : 遠藤 正夫(役員)	会 場 監 督・出 席 : 東上里 和広(理事)	会 員 選 考 : 前木 繁孝(理事)
副 会 長 : 橋本 孝来(役員)	プ ロ グ ラ ム・親 睦 : 黒島 剛(理事)	ロ ー タ リ ー 財 団 : 仁開 一夫(理事)
幹 事 : 池城 貞光(役員)	情 報・広 報 : 佐藤 智博(理事)	職 業・社 会・青 少 年 : 宮良 幸男(理事)
副 幹 事 : 大田 次男(役員)	会 員 増 強・職 業 分 類 : 宮城 早人(理事)	国 際・米 山 : 新 賢次(理事)

会計監査	宮城 隆 前原 博一
------	---------------

地 区	国際奉仕委員	新 賢次
	日台友好特別委員	大浜 一郎
	米山奨学副委員長	大浜 勇人

